

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

②産業界等、社会のニーズと大学院教育のマッチングを図るための企業等との教育連携

●東京海洋大学海洋科学技術研究科応用生命科学専攻

「研究・実務融合による食の高度職業人養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

博士後期課程（応用生命科学専攻）に「企業型プロジェクト（合同セミナー）」を新設した。本科目では、企業での商品企画業務に精通したプロに直接指導を仰いだ。すなわち、企業再生を手がけた経験を有する経営コンサルタント2名を講師として招聘し、学生が自分のアイデアを事業化するプロセスを指導してもらい、事業化企画案を投資の専門家の前で発表し評価を受ける授業とした。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

授業では、博士後期課程学生に自由に選択したアイデアを、製品あるいはサービスとして事業化する開発プランを提案させた。社会ニーズの調査力、アイデアの独創性、柔軟性、商品化の実現性などについて、5回の集中授業では毎回、ゲスト講評者を招き、ミニ講演とその後の学生のプレゼンに対する講評に参加してもらった。最終発表会には講師に加えてさらにベンチャービジネスの専門家5名に参加を仰ぎ、より実践的でシビアな視点で緊張感あるプレゼンテーションの場とした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

本科目は、これまでの研究者育成型の本学の大学院（博士後期課程）教育を改め、社会のニーズに的確にマッチした技術者を輩出することを目的としたものである。「アイデアを事業化する」トレーニングを通して、これまで狭い研究室の視野の中でしか自分の研究を捉えていなかった学生にとって、ビジネスの目線で研究開発を見る眼を養われ、卒業後に広く社会で活躍するためのスキル向上に大きな効果があったと判断できる。